

国際理解や国際貢献の視点に立った取組

廿日市市立吉和中学校

1 平和教育の取組の概要

本校では、生徒が自分たちにとって「平和」とは何かを考え、自ら行動すべきことがあれば行動できる人間になってもらいたいと考え、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動等、全教育活動を通して、「戦争や被爆の実相に触れる取組」「廿日市市（吉和地域）を題材にした取組」「国際理解や国際貢献の視点に立った取組」の3つの視点に添った平和教育を進めている。

隣接した廿日市佐伯地域玖島には、作家大田洋子が「屍の街」を執筆した家が現存し、資料館には多くの資料が残されている。この資料を活用した「平和教育」にも今後取り組んでいきたい。

2 本実践事例について

(1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校は、総合的な学習の時間において、地域の自然・産業・文化について学ぶ吉和学習や高齢者・身体障害者に視点をあてた福祉学習に取り組んできた。3年前からは、E S D（持続可能な開発のための教育）の視点から、理科の授業において、地域の「川の見守り隊」の方の指導のもと、指標生物による地域の川の水質調査を行う環境学習や、第3学年が日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」に参加し、世界に目を向ける国際理解教育に取り組んでいる。今年度からは、学習をさらに深化させるために、第3学年から取り組んでいた「世界寺子屋運動」に第1学年から取り組んでいる。

(2) 指導のポイント

- ☆ 世界平和のために私たちの社会が解決しなければならない多くの課題があることに気付かせ、人権や国際理解についての意識を深め、世界に貢献する意欲と態度を身に付けさせる。
- ☆ 持続可能な社会を築くという観点から、現代の世界には、環境、貧困、人権、平和といった国を超えた問題がたくさんあることに気付かせ、様々な国や立場の人々と協力することが大切であることを理解させる。（付けさせたい力1、2）
- ☆ 生徒に一面的な見方や考え方を押しつけることのないように留意し、生徒の主体的な活動につながるようにする。（付けさせたい力3）
- ☆ ICT機器などを効果的に活用して、自分の考え・意見を分かりやすく伝える力を育てる。
- ☆ 日本ユネスコ協会連盟等の外部機関と連携して取り組む。

3 本事例の指導計画

(1) ねらい

「世界寺子屋運動」の調べ学習を通して、世界には教育を受けられない人々がいる現状を学ばせる。また、リーフレットの制作を通じて、世界平和のために私たちの社会が解決しなければならない課題を学ばせ、人権や国際理解についての意識を深めさせ、生徒に人としての生き方を考えさせることにより、全人格的な生きる力を養う。

(2) 対象学年 第1学年

	主な学習活動	指導上の留意事項
第一次	○情報収集, 課題の設定 ・日本ユネスコ協会連盟のホームページで「世界寺子屋運動」に関する情報を収集する。 ・自分の課題を設定する。	・世界には学校に行きたくても行けない人々がいる現実（地球規模の課題）があることを理解させる。
第二次	○情報収集, 整理, まとめ ・自分の課題について調べる。 ・調べたことを整理して、「世界寺子屋運動」のリーフレットを制作する。	・自分にできることは何かをしっかりと考えさせた後、リーフレットを制作させる。 ・人を引きつけるリーフレットについて考えさせる。
第三次	○表現, 課題設定 ・制作したリーフレットを全校生徒に紹介する。 ・自分たちにできることを考える。 ・書き損じハガキの回収を全校児童生徒に呼びかける。 ・回収した書き損じハガキを日本ユネスコ協会連盟に送る。	・世界の人々と協力することの大切さに気付かせる。 ・自分たちにできることを考えさせ、主体的に活動させる。
第四次	○まとめ ・学習を振り返る。	・学習したことを振り返らせ、今後も、世界に貢献していこうとする意欲をもたせる。

4 生徒の反応（授業後の感想）

- 今回、リーフレットを作ってみて、世界には、勉強したくてもできない人がたくさんいることが分かった。僕は子供の頃から勉強ができて先生もいてくださるのでとても幸せだと思いました。
- 僕たちが2, 3時間で作ったリーフレットでたくさんハガキが集まり、うれしいです。また、このたび世界の子供だけでなく、大人も学べていないという現状を学ぶことができました。「ハガキで世界が幸せになる」僕も協力して、みんなにも呼びかけようと思います。
- まず世界の私たちと同じくらいの年齢の人が学校に行けていないということに驚きました。集めたハガキや作ったリーフレットが少しでもその人達が学校に行くための力になればいいなと思いました。勉強がいやだと思っていたけど、考え方が少し変わりました。勉強ができる自分は幸せです。
- カンボジア以外にも学校が足りないところがあるけど、まずはカンボジア、次はどこか、その次は…と学校を少しずつ造っていったらいいと思う。カンボジアの学校が出来上がったあとも、他の学校の支援をしていきたい。

